

青年海外協力隊員
石塚幹子さんから
お便りが届きました

コスタリカ から

Hola!
オラ



コスタリカ共和国の言語はスペイン語。Hola は「こんにちは」の意味です。



- ①村の女性グループと共に集会をした時。もんぺ、足袋、手ぬぐいを身につけ、日本の農業を紹介
- ②村の家の様子。庭にたくさんの木や花を植えています
- ③フリーホーレスというコスタリカの主食といえる豆を収穫

常陸大宮市の皆さんこんにちは。日本もだんだんと暑くなってきた頃でしょうか。地球の裏側、コスタリカは5月より雨期に入りました。今回は、私が生活する小さなまちウパラと活動内容についてご紹介します。

ウパラは首都サンホセよりバスに乗って北へ5時間、隣国ニカラグアまで約15キロの国境付近に位置しています。ニカラグアからの移住者も多く、コスタリカで最も貧しい地域といわれています。しかし、スパーから学校、病院、郵便局、美容室に雑貨店と何でもそろっているのに、不便はありません。日本と比べてしまえば、物の種類や品数は少なく、停電や断水もしばしばありますが、ウパラでの生活は、とても静かでゆつたりとしています。そんなまちから、でこぼこ道を数十分進んで行くと、ベニヤ板作りの簡素な家や、牧草地、米や豆の畑が広がる村につながります。村へ行くと、お土産に果物をくれたり、娘にならないかと冗談を言われたり、魚釣りに誘ってくれたり、外国人の私を温かく迎えてくれます。村の人たちは、主に農業で生活をしていて、子どもたちは、サッカーや追い駆けっこをして元気に遊んでいます。もちろん、テレビを見たり、小さな売店で売っているお菓子を食べたりもしますが、自然と共に生活をしている印象を受けます。

こちらの人々の食事はとても質素

で、主に米、豆類、いも類や青バナナ等を食べています。鶏肉と卵は時々食べる程度で、野菜はあまり食べません。多くの人が、まきで料理をしていて、水道や電気の通っていない家もあります。

私は農牧省に配属され、こうした村に住む家族と共に、生活の質や栄養面の改善を促すプロジェクトに参画しています。具体的な活動内容は、各家庭や学校の菜園作りへの協力と、野菜栽培に関する講習会、実習を共に行うことです。

野菜への興味関心を引き、食生活に野菜を取り入れてもらい、知識や情報を共有し、村人の自発的な活動を促すきっかけを作りたいと思っていますが、実際は、思った以上に難しいと感じます。まずは、住民が何に問題を抱え、何を望んでいるのか、深く知りたいと思っています。お互いに学び合い、一緒に生活改善の活動をしていけたらと思います。

文化・習慣の異なるこの国でコミュニケーションをとるために、言葉で伝えないと伝わらないことがたくさんあります。ですが、話を聞きたいのに、聞けない。話したいのに、言葉が出てこないなど、悔しい思いもしますが、徐々に活動を進めていけるよう頑張ります。

また、コスタリカに関して知りたいことや、伝えたい日本文化、家庭や学校菜園に関するアイデアがあまりみたらぜひ教えてください。それでは、アスタルエゴ！（また今度）